

# LIBRARY NEWS

令和8年5月22日 No.2

新座市立第三中学校

校長 近藤 章宏

(図書室だより) 図書整理員 名本 浩子

暑くもなく、寒くもなく、過ごしやすい5月のはずが、近年、季節は二季化され、今週は、まだ5月だというのに、多くの観測地で、猛暑日を記録しました。

先月4月17日に、気象庁が、最高気温が40℃以上の日の名称を「酷暑日」に決定したことが報道発表されました。

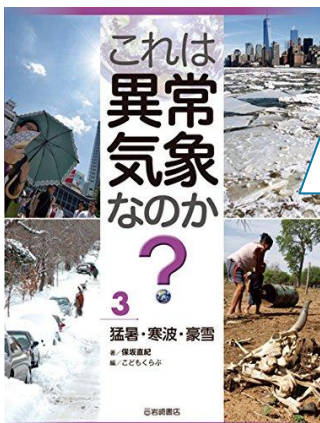
「酷暑日」は、気象庁が実施したアンケートにおいて、最も多く支持を集めるとともに、有識者からの、社会的にもなじみがあり、日本語としても適切であるという意見もあり、名称として最も適切であると判断したそうです。

これから、ますます暑さを増し、「酷暑日」が多くなっていくと予測されますが、そうした猛暑の現象と温暖化する地球の未来について、知る機会をもってみたいはいかがでしょうか。

## 『これは異常気象なのか？3』

猛暑・寒波・豪雪』

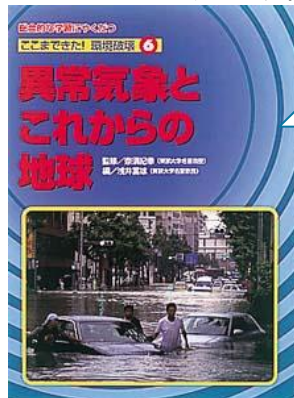
保坂 直紀/著 こどもくらぶ/編  
(岩崎書店)



猛暑で人が亡くなったり、熱波で山火事が起きたり、冬には逆に寒波が押しよせるなど、極端な気温による気象現象の原因を探る。パート1 [猛暑・干ばつ]をチェック！

## 『総合的な学習にやくだつここまできた！環境破壊6』

異常気象とこれからの地球』  
奈須 紀幸/監修 浅井 富雄/編  
(ポプラ社)



異常気象の原因や被害、今後の対策を図や写真でわかりやすく解説。

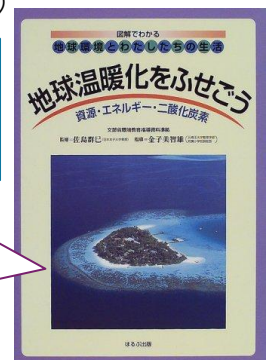
誰にでもできるやさしい環境調査や実験の方法なども紹介。

## 『図解でわかる』

地球環境とわたしたちの生活

地球温暖化をふせごう

資源・エネルギー・二酸化炭素』  
佐島 群巳/監修 金子 美智雄/指導  
(ほるぷ出版)



さて、先日、1996年のテレビシリーズ放送開始以来、「名探偵コナン」の毛利蘭の声を、約30年にわたって担当してきた声優、山崎和佳奈さんの死去が報道されました。長年、慣れ親しんできた“蘭姉ちゃん”の声を、もう聞くことができないと思うと、寂しさや喪失感を感じている人も多いのではないのでしょうか。

名探偵コナンのシリーズや「声優」という仕事に関する本を読んで、愛され続けてきた蘭の声を思い出しながら、ぽっかり空いた心の穴を癒してください。

## 『名探偵コナン 隻眼の残像』

水稀しま/著 青山 剛昌/作 櫻井 武晴/脚本  
(小学館ジュニア文庫)



「隻眼の残像」をはじめ、コナン映画のノベライズがそろっています。

シリーズ最新の「ハイウェイの墮天使」も入荷予定。お楽しみに！



## 『キャリア教育支援ガイド』

お仕事ナビ10

マンガ・アニメに関わる仕事』

お仕事ナビ編集室/編 (理論社)

キャリア教育支援ガイド

お仕事ナビ10  
マンガ・アニメに関わる仕事



これもあります！



令和8年度、第72回「青少年読書感想文全国コンクール」中学校の部の『課題図書』を紹介します。



## 『君の火がゆらめいている』 落合 由佳/著 (講談社)

「きょうだい児」とは、障害や重い病気のある兄弟や姉妹がいる子どものこと。

葉澄も、発達障害のある双子の姉がいる きょうだい児だ。

家族は菜々実が優先。学校でも、菜々実のことで、仲のよい友だちと疎遠になってしまう。そんなとき、自分と同じような境遇の恵太と出会う。

恵太が問う。「生存する人の全員が健常者で、障害者は排除されて成り立つ社会があるとしたらって。そこに豊かさとか、発展とか、やさしさはあるのかなって」

小学6年生から中学卒業までの日々で、変化していく葉澄の心や成長を追っていく。

ちりちりと火に焼かれているみたいに感じる胸の痛み。この、自分も体験したことのある心の中の火のゆらめきを感じることでしょう。そして、最後に、二人の姉妹の姿に ふわりと胸を温められます。



## 『チーム・テストならだいじょうぶ』

カービー・ラーソン/著 クイン・ワイアット/著 (鈴木出版)

新しい場所で、いいスタートが切れますように。新しい友だちができますように。中2で転校してきたテストも、そんな願いを抱いている。

けれど、友だち作りはうまくいかない。おまけにお腹に激しい痛みが突然襲ってくる。

亡き父が大好きだったように、お菓子づくりが大好きなテスト。自分の作ったお菓子を分けて友だち作りに成功する。そして、テストを応援する「チーム・テスト」が結成され、お菓子作りコンテストに出場することに。

「クローン病」とは、今のところ治療法がなく、ずっとつき合っていないかなくてはならない病気。けれど、『チーム・テストならだいじょうぶ』。そして、わたしには、大好きなことがある。パパが大好きだったお菓子作り！夢をもって生きていこう。そんな勇気と元気をくれる一冊です。



## 『リュウグウの砂に挑む チームで小惑星のサンプルを分析』

伊藤 元雄/著 さらち よみ/絵 (くもん出版)

「ナノ」という1ミリの100万分の一のとてつもない小さな科学の目で、いろいろなものをよく見るのが ぼくの仕事。

生命のもとになる水や有機物は、どこから、どうやって地球に運ばれてきたのか。

地球に接近する軌道を持つ天体、リュウグウから小惑星探査機「はやぶさ2」が持ち帰った貴重な砂の分析が始まった。

砂が届く前からの準備。情報の共有。貴重な砂を無駄にしないように細心の注意を払う。限られた時間で十分な成果が求められる。そして、ついに砂の正体が明らかになる。

「宇宙人はいるのか」—天体から採取した何かを分析することで、未知なる宇宙のどんなことが解明されていくのか楽しみになります。